

[月刊] 1988年6月18日第三種郵便物認可

# トマ喰い虫

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502  
トマ喰い虫社

☎03(498)6095 大塚  
045(563)5101 いづも  
FAX045(563)9907

郵便振替 東京6-136148

No. 67, 68  
91.6.20  
定価 100円



絵：渡辺芳枝

インディペンデンスの母港反対！／海外派兵反対にグローバルな視野を  
ハーフ・オプションの提案  
憲法・PKO…東京の学生1000人に聞くetc

[発行] トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円

個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円

個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口

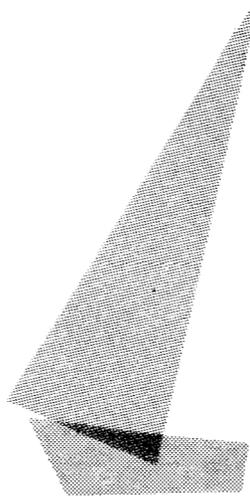
2000円

あなたも仲間！（会費は本誌購読料を含みます）



先の予測もつかない状況が続き、刻々の状況に最も必要な緊急対応が求められていた。しかし、戦争は始まり、反戦運動家たちが打ちのめされるような大量殺戮が行なわれ、「管理戦争」を肯定する一般の人々の気運が作られた。冷戦終決という歴史の大転機を肯定的な潮流に創造するために、大きな方向を見付けたさなければならぬ。五月の行動週間は、その意味では、反戦運動家たちが、湾岸戦争の総括を求められている時期に当たっていた。とりわけ、アメリカ、イギリスなどの反戦運動家たちは、「燃えつきた」状態にあり、「行動よりも立ち止まって深い省察をすることが大切」と、行動しないことを選択したグループもおおかつた。

本質的には、日本でも同じような状況を抱えていた。しかし、日本の場合、この戦争を契機として始まった、自衛隊の海外派遣に向かう攻勢は止まるところを知らず、湾岸停戦後も四月は掃海艇ペルシヤ湾派遣問題のピークを迎えた。その後も、PKOへの参加問題



が政治焦点化し、政界再編をはらみながら、目を放すことができない状況が続いている。したがって、日本でも確かに必要とされている省察の時期を私たちは後回しにせざるをえなかったと言えるだろう。

### インデペンデンス母港

サンディエゴ平和資料センターのキャロル・ジャーノンクウさんを、この行動週間に招いたのは成功であった。

ひとつには、空母インデペンデンスの現在の母港サンディエゴの活動家と母港反対に力を入れていた横須賀などの活動家が直接知り合ったことの意味が極めて大きい。彼女は横須賀平和船団をサンディエゴに招きたいとい、インデペンデンスの行動を監視して私たちに知らせることを約束した。

しかし、もっと重要な役割を彼女の訪日は果たした。彼女は、私たちの掃海艇派遣問題への熱意に驚き、その世界に貢献する意味を考えたようであった。彼女は「掃海艇派遣反対は、ブッシュの新世界秩序に対する異議申し立てになると思う。つまり、ブッシュが強引に描こうとしている新秩序に抵抗する運動の存在を世界の人々に告げているのだ。運動をもっと世界に見えるものとしたらどうか。」

と語った。この指摘は、日本憲法との関係で掃海艇派遣反対問題を語るだけではなく、憲法にこだわることの同時代的な意味を国際的に主張することの大切さを、私たちに気付かせた。そういう意味で、私たちの運動の一国的な癖はまだとれていない。

### 国連軍縮京都会議に手紙

横須賀でのコモンディトは、海部首相が参加した第二回国連軍縮京都会議の前日であり集会決議として、京都会議参加者に向けた訴え文「日本こそまず軍縮を、日本憲法の非暴力主義を世界に」を採択した。訴えは英訳され会議事務局に送られた。京都の会場入口での参加者への直接配布は、京都の反戦ドタバタ会議などの努力にもかかわらず、国連軍縮会議にはおよそ似付かわしくない警戒体制によって阻まれた。しかし、広島に移った会議では、広島グループの交渉の結果、主催者が配布資料のなかに私たちのアピール文を入れてくれることになった。よく知られていないが、特筆すべきことであった。

### ソ連の参加

今年の国際行動で注目したいのは、ペレス

(ペレス)

## サンディエゴからのあいさつ 力を合わせて軍国主義に 抵抗しましょう！

キャロル・ジャーノンクウ

皆さん今日は。サンディエゴの平和運動からあいさつを申しあげたいとおもいます。また、日本に私を招いていただき、本日は海の軍縮行動に出席させていただいたことに感謝したいと思います。

サンディエゴと横須賀の間には深い関係がありますが、もっとよい関係であつたらいいのにと願わずにはいられません。

サンディエゴは約九〇から一〇〇隻の軍艦の母港です。これらの軍艦はよく日本を訪れており、もともとはサンディエゴを母港にしていたファイフとバンカーヒルは横須賀に移されました。これらの船がサンディエゴを離れ、日本の平和原則をおかして、核兵器という死の積荷を運びこんでいる様を見るのは悲しいことです。今日はこの場で、これらの動きを憂慮し、アメリカ政府が日本に軍国主義

を輸出することを止めようとする平和運動がサンディエゴにあるということを紹介できたら、と思います。

(サンディエゴ平和資料センター)

●う・26横須賀集會での発言

先週の土曜日、私がサンディエゴを離れる時、空母インデペンデンスの上空を飛んできました。これがもうじき日本にやってくるのかと思うと深い悲しみと強い怒りにおそわれました。インデペンデンスの日本母港化は日本へのさらなる核兵器の持ち込みを意味すると同時に、米国の戦闘能力の新たな段階に日本が組み込まれていくことを意味します

先日の神奈川新聞の報道によると、空母ミッドウエーは八月中旬に横須賀を離れ、フィリピンでインデペンデンスと合流するといふことです。その後、ミッドウエーはサンディエゴで廃艦にされ、インデペンデンスが横須賀にやってくるということです。サンデ



イエゴにある私のグループからの情報によると、インデペンデンスは今港にいないそうです。きつとそのあたりを航行し、日本に移動する前の水兵の最終訓練を行っているにちがいありません。サンディエゴではこれからもインデペンデンスに対する監視行動を続け、日本に向かうときには皆さんが応対の準備が出来るように警告したいと思います。

先週、サンディエゴでは皆さんにとってもショックな事柄が明らかになりました。原子力潜水艦ガードフィッシュの乗組員八人が身の危険を感じて乗船を拒否したのです。彼らは、少量の放射能が定期的な海に流れ出す冷却システムの中へ漏れ出していることをはじめ、様々な問題を指摘しています。ガードフィッシュは少なくとも二十回は日本を訪れています(沖縄に五回、横須賀に十五回)。

(キャロル・ジャーノンクウ)

# ハーフ・オプシヨンの提案 二十一世紀までに 軍事費半減を!

青木雅彦 ● 反戦ドタバタ会議 / 京都

## 本当に「逆王手」?

八九年十一月ベルリンの壁崩壊と共に冷戦構造も崩れた。まさしく冷戦そのものの落とし子の自衛隊と日米安全保障条約も、当然根本的に問い直される、と思っていた矢先、九十年八月のイラクのクエート侵攻に始まる「湾岸危機」戦争。この戦争は、本当は頭を丸めて日本の軍事を世界屈指のものにしたことを国民にお詫びするはずの政治家にとって、まさに「神風」になった。日本国内の議論の焦点は「軍縮」でなく、「いかに自衛隊を海外に派遣するか」あるいは「いかに米國に協力するか」にすり替えられた。日本の「平和勢力」(こういう表現が適当かわから

ないが)は「王手」をかけるべきときに、いきなり「逆王手」をかけられた格好だ。

しかし、早くも「翼賛会」的な動きをして、いる政治家やマスコミのはしやぎぶりから距離を置いて考えてみると、九十年代の日本の課題はやはり軍縮にあることは間違いない。なにしろ日本に対して在日米軍経費分担をあれほど要求している米軍そのものが、九五年までで四分の一も減らされる(九二年度米国防報告による)というのだから、例によって「米國追従」をやっても苦情は来ないはずだ。

## 王様は裸だ恐怖症候群

ところが驚いたことに、与党はもちろん野党からも具体的に日本の軍縮を求める動きは

皆無である。先の通常国会で話し合わなければならなかった「次期中期防衛力整備計画」(九一年/九五年)も、「湾岸戦争」もあって結局ほとんど審議もなく、二兆七千億円の計画は議員の先生の意識にのぼることすらなく、「了承」された格好になってしまった。原因は恐らく日本の政治風土にあるだろう。

つまりみんなが話題にすることにについては興味がなくとも加わり、誰も口出ししないことについては、それが自分にとってどれほど重要であると思っても決して口出ししないという、いわゆる「王様は裸だ恐怖症候群」である。治療法はただ一つ。誰かが町中で「王様は裸だ」と叫ぶことである。誰がこの少年になるのか。政治家、労組指導者、知識人、宗教家、未だ日本では誰も声を上げようとしな。そこで私のような「一介の町人」が業を煮やして、「お上に盾をついて」、「お歴々を差し置いて」一つの具体的な軍縮提案をしたわけである。私はそれをとりあえず「ハーフ・オプシオン」と名づけた。

## ハーフ・オプシオン — 環境から生命へ —

「ハーフ・オプシオン」の前身は単純明快。小学生にも金のことしか興味がない政治家に

もスグ理解できる。骨子は次の二点である。  
一、二十一世紀(二〇〇一年)までに日本の現在の軍事費(四兆四千億円)を半分の二兆円にする。

二、現在の軍事費(次期防レベルの伸びを仮定)との差額(二〇〇一年までの累計一九兆円)は、地球環境保護、国際的人権保護など国際的貢献の費用にあてる。また若干は自衛隊の平和組織への改組・隊員の転職、米軍・自衛隊基地の跡地利用にもあてる。

スローガン風にまとめれば「破壊から生命へ、二十一世紀・十年・半分」ということになる。ただこの提案には何も独創的なところはない。同様の提案を行っている政党もある。しかし「浮いた」軍事費を日本人の福祉などのためではなく、国際的貢献の資金とするところは大きく異なるかもしれない。これは最近の自民党などの「国際的貢献論」に妥協したためでなく、できるだけ多様な人が議論に参加することを保障するためである。

## 「反対」から「提案」へ

軍事費を半分にすると言っても事は単に「軍事問題」の範疇にとどまらなくなる。日

本の外交政策、国家理念、他の大きな問題とどう取り組むかなど細かい点で大きな政治勢力が一致することはありえない。しかしあまりにも大きくなりすぎた軍事費を、大幅削減することでは恐らく日本人の過半数はあえて反対の論拠を持たないだろう。だから「浮いた」軍事費の使途については国民的な議論を継続させつつ、とにかく軍事費を半減せよという圧力を一致して政府にかける(あるいは手始めとしてなぜこれほどの規模の軍事費が必要なのかを政府に質す)ことは可能だろう。

こちらから政策を積極的に提案してイニシアチブを取ることにある。積極的に論争を仕掛けて多くの国民を運動に巻き込んでいくことにある。「待ち」ではなく「攻め」、いわばOPPOSE(反対する)からPROPOSE(提案する)への運動の転換である。「浮いた」軍事費を地球環境保護や人権保護に使うと提案することで、そのような問題に携わる人の論争への参加も得られるだろう。



パンフレット

市民が語る

湾岸戦争後の平和運動

発行：アクション・マーケット  
定価 四〇〇円

●五月三日、東京で開かれた討論集金の記録です。主催の「アクション・マーケット」は首都圏の湾岸戦争反対行動のネット・ワーク。反トマ喰い虫全国運動も連絡先の一つです。  
●議論沸騰となったのが、青木さんの「ハーフ・オプシオン」の提案でした。ぜひ皆さんも読んで、一緒に考えてほしいと思います。  
なお、本紙編集長の田巻も「憲法九条と国連」に関する問題提起を行っています。お問い合わせはトマ喰い虫社へ。部数がまともれば、割引きもあります。

# 過半数が憲法九条支持

## 大学生一〇〇七人に きいてみた 戦争・憲法・自衛隊 +PKO

稲葉 剛 ● ピース・チェイン・リアクション

私たちピース・チェイン・リアクションは湾岸戦争をきっかけに集まった学生を中心とするネットワークです。ベトナム戦争の頃、物心ついていなかった私たち若い世代にとって、湾岸戦争は生れて初めて体験する本物の戦争でした。この初体験の戦争に対し、大学のキャンパスで、国会の前で、街頭で、私たちの世代のいろんな人たちが反対の声をあげました。そのひとつひとつの動きはとても小さなものでしたが、協力して平和のチェインをつなげていくことで連鎖反応(チェイン・リアクション)をおこせるのではないかと、こんな発想で私たちは、ネットワークキングダム、公明党本部への九十億ドル反対申入れ行動など、様々なアクションを行ってきました。

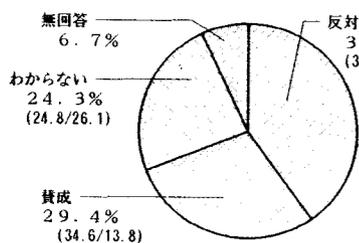
そういうしているうちに戦争が終わり、アレイオという間に掃海艇が出ていってしまふ中、私たちはともすれば自分の足場を見失いそうになりました。戦争中はどんどん新しい人が来て、活気づいていたピース・チェイン・リアクション(以下、PCRと略す)も戦争が終わってしまふと、なかなか新しい人が来なくなってきました。このままではPCRも内側に閉じてオタクになってしまふ。そんな雰囲気の中で提案されたのが、討論会とそれに向けてのアンケート調査です。戦争中、私は反対の声をあげたが、教室の隣の席に座っていた人は何を考えていたのか。まずそのことを知り、その人たちに語っていく言葉を見つけていこう。またアンケートに答えてもらうその場で、いろいろ話もできるのではないかと。そんな思惑から、私たちは、各大学を回り、アンケート調査を始めました。

その結果、千七人のアンケートが集まりました。実施したのは、早稲田、法政、大正、立教、ICU、東大、一ツ橋、津田塾、創価、東洋、上智、学芸大、男四百九十一人、女三百二十六人、性別欄未記入が百九十人でした。

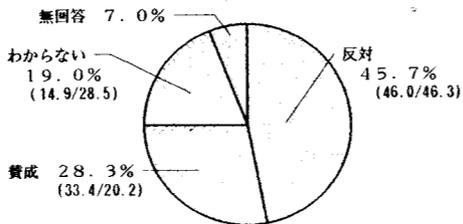
PCRでは、このアンケート結果を分析する話し合いを持ちました。その中で指摘されたのは、以下のようなことです。

★矛盾が多い：一人の人が、一方で自衛隊廃止と書きながら、もう一方で海外派兵に賛成したりというようなケースが多くありました。★男女の差：こんなに歴然とするとは思いませんでした。このことに関しては、戦争は今

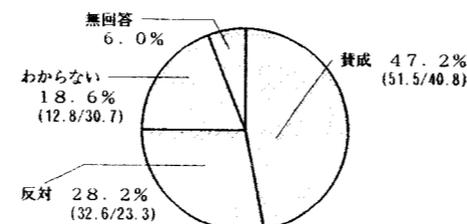
Q: 多国籍軍の武力行使について



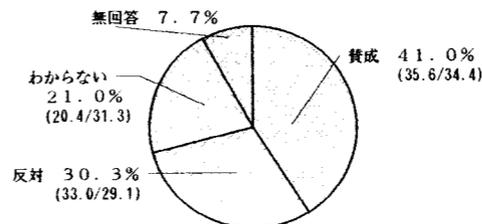
Q: 日本の90億ドル支援について



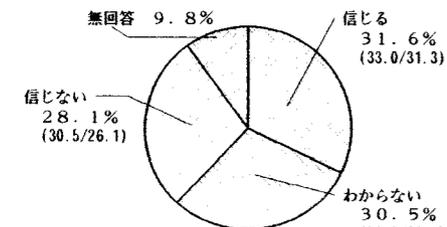
Q: 今回の難民救済のための自衛隊機派遣について



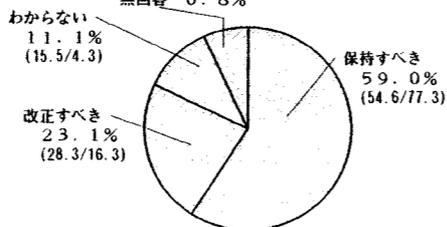
Q: 今回の掃海艇派遣について



Q: 湾岸戦争に関する日本の報道を

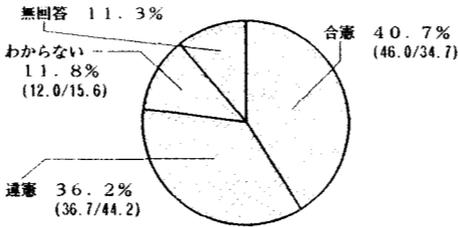


Q: 憲法9条について

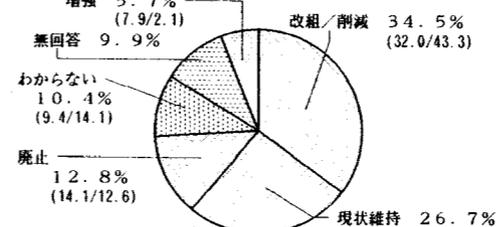


◆「改正すべき」と答えた人へその理由は?(複数可)  
(%は改正論者中)  
①戦力不保持、交戦権否認は実情にそぐわない 30.5%  
②規定があいまいだ。(歯止めをもっと明確にすべき) 62.2%  
③国際貢献のさまたげとなる 26.6%  
④その他 日本が作ったものでないから/自衛隊を容認しているから/国家は道徳に縛られるべきではない/自衛隊を認めていないから

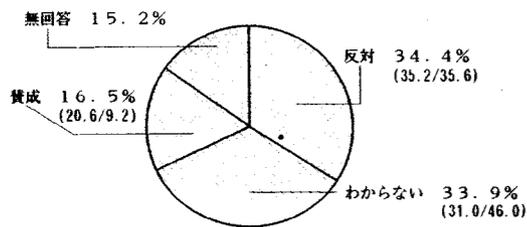
Q: 自衛隊の存在について



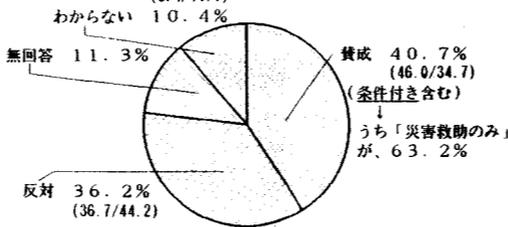
Q: 今後の自衛隊をどうすべきか?



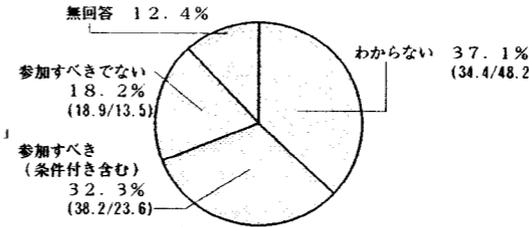
Q: PKOへの自衛隊の参加について



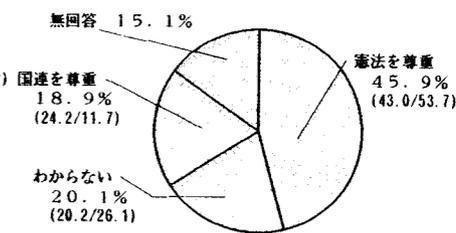
Q: 自衛隊が海外で活動することについて



Q: 日本のPKOへの参加について



Q: 憲法は紛争解決のための武力行使を否定し一方国連は紛争解決のための武力行使を認めている。どちらの理念を尊重するべきですか。



の社会システムが必然的に生み出すもので、男は今のシステムの中で権力に近いから、「好戦的」なんだという意見もできました。★イメージに左右されている：「自衛隊」が裸のまま提示されると抵抗感が強いのに対し、「難民救助」や「災害救助」といったオブラートに包まれるとイメージが良くなるのではないかと、という指摘がありました。★「わからない」：特にPKOに関する設問では、「わからない」と無回答が合せて約半数になりました。PKOを災害救助と混同している人も多くいて、PKOの実態がよく知られていないことを痛感しました。主な点は以上ですが、このアンケート結果とにらめっこしていると他におもしろいことが発見できるかもしれません。この結果をふまえ、反戦平和の声を広げていくために何をすべきか、という点についてPCRは現在企画中です。「戦争は仕方なかった」と思っている人に対して、どのような言葉で説得していくのか。また心情的には戦争に反対の人が、意思表示をしやすい状況をいかに作っていくのか。みんなでアイデアを出しあっていきたいかなと思います。

(ウヰンズ) 最近では昨年九月二十一日から二十九日にかけて。そんな中で、日本の港でも放射能漏れがなかったという保障がどこにあるでしょうか。ところで、みなさんの湾岸戦争中の平和運動について知ることができたのは大変有益かつ励みになりました。戦争中は米国では私たちの平和メッセージをメディアで知らせることが難しく、他の地域の活動についてもあまり知ることが出来ませんでした。皆さんはあまり聞かなかったかもしれませんが、しかし米国には湾岸戦争に対する反戦運動がしっかり存在しました。たとえば、一月十六日には、米国全土のさまざまな都市で五〇万の人々がデモを行いました。サンディエゴでも一月十二日に一万人がデモに繰り出したのをはじめ、戦争が終わるまで毎週日曜日には三〇〇から五〇〇〇人規模でデモを行いました。高校やキャンパスでも多くの自然発生的な行動が起こりました。昨年の冷戦の終結は、各国の政府が問題を解決するために武力を用いることを止めるのではないかとの希望を抱かせました。しかし、湾岸戦争はこの平和と希望の夢を打ち破り、世界を新たな軍国主義の流れへと押しやっています。

私たちは全力をもってこの流れに抵抗しなければなりません。あまりにもこの流れが危険なので私たちに休んでいる暇はありません。米国への九〇億ドル資金援助に反対する運動や中東への掃海艇派遣に対する運動への皆さんのたゆまない努力は、日本で膨脹しつつある軍国主義に抵抗していくうえで重要であると同時に、米国の軍国主義にとっても大きな打撃となっています。これらに対する皆さんの抵抗は、ジョージ・ブッシュが実のところ国際的支持を得ていないことをアメリカ国民に示したのです。本日デモが行われたということは、みなさんが湾岸戦争が終わったからといって反戦運動の必要がなくなったわけではないことを知っている献身的で一生懸命な活動家であることを示していると思います。私たちは軍国主義を許すことができません。私たちはあらゆる機会を使って非暴力的手段によって抵抗を続けなければなりません。私たちの運動がお互いに協力することによって、将来軍国主義に終止符を打てることを願ってやみません。どうもありがとうございました。 訳 ●伊沢桂子/学生(ピース・チェイン・リアクション)

●四月二十六日、六隻の掃海艇隊が発航していった。国民の合意も国会論議もないうちに、あまりにもあつげなくハードルは一つ乗り越えられてしまった。●せめてこの瞬間に立ち会いたい。暴力による「新世界秩序」に「同意しない」世論がここに確かにあることを伝えたい。呉で横須賀で、平和船団を繰り出した私たちのそれが正直な気持ちだった。●抗議行動に参加した二人の方から文章を寄せていただきました(次ページから)。●出港前日の二十五日、横須賀では平和船団が掃海艇の船体に反戦スローガンをスライドで投影するという画期的な行動に成功しました!



# 平和船団は行く

## 海の掃除にGO! GO! GO!

栗原貞子

突然、目の前に現れた  
半世紀前の異風景  
海上百衛隊の掃海艇には  
日の丸の小旗をふって見送る人たちが  
幼児を抱いた若い妻や 恋人たちが  
出動する軍艦に向かって  
涙を拭いながら 手を振っている  
軍艦マーチが鳴って  
掃海艇「はちせ」の巨体が  
ゆっくり動き始めた  
ちがっているのは 若ものたちの  
ピース・リンクの平和船団が  
ゴムボートをついで  
デモしていることだ  
ゴムボートが巨体に近づいていくのを  
海上保安庁の船団が阻止して  
近づけない  
軍艦マーチは鳴っているが  
聞き馴れたパチンコ店の騒音だ  
「戦争は終わった」  
「平和の海をつくるためだ」  
「国際国家の当然の責務だ」と言う  
「戦争の後始末は戦争した国がやれ」  
「戦争の尻のいすをするのも戦争だ」

四十二日間  
一千機十万六千波の  
空襲をくりかえし  
殺りく破壊を行った正義と民主主義  
同調せぬ者は  
一國平和主義のエゴイズムで  
国際社会の孤立だとバッシングする  
半世紀前 非国民・国賊を弾圧し  
孤立させた天皇の国の論理で  
そっくりだ  
もつろしあいは決山だ  
平和を願わぬ者はいない  
地球人類共生の手をつなごう  
多国籍軍やればはやくわが国  
国連の戦争許可で GO! GO! GO!  
石油の権益めがけて GO! GO! GO!  
核超大国が 小国の核保有は  
許さぬとGO! GO! GO!  
のりおくれの後から  
海の掃除にGO! GO! GO!  
平和と民主主義のファシズムが  
世界をゆすぶってGO! GO! GO!  
九一・四・三〇

# 市民運動にとって 試練の時代それが 「平成」の意味

● 杉本皓子

一九八六年四月二六日は、ソ連の原発事故が世界を放射能汚染の恐怖に導いたおぞましい記念日である。その五年後、私たちの国日本は四十六年ぶりに軍隊をアジアに送った。米軍のシーレーンを通り、最初に一九四一年二月八日リメンバー・パールハーバーの襲撃地の一つであるフィリピンに寄港した。

● ● ●  
四月二六日朝、私は横須賀の日米共同使用軍港にいた。昨年から名古屋の「自衛隊の派兵を許さない市民ネットワーク」の友人たちと派兵反対の行動をつくってきた。湾岸戦争が始まり、私たちの税金でアメリカのやりたいその戦争を支えることは、いけないことだと思った。私は、いつも数年来友人となってきたフィリピンの友人たちを思い浮かべなが

ら、自衛隊派兵をとめようとがんばってきた。時に家族を不愉快にさせ、時にネットワークの友人たちと笑顔を交わしながら、そして時にグッタリ疲れながら。

でも、今まきに出ていこうとする二六日、とにかく私は、この目で自衛隊が派兵されるその現場にいたかった。私は、自分がその瞬間を、どう思うだろうか、泣くだろうか、怒るだろうか、感情が停止するのだろうか、自分自身がどんな感情を持つのか興味を抱いていた。なぜなら、ここ十年間に会ったアジアや第三世界の人々との関係を私がこの派兵の瞬間にどう整理できるのか、その心の旅が私にとって、とても大切なものだったから。

● ● ●  
掃海部隊が横須賀港を出ていく時、見送り自衛隊の楽団の音も、そばにいた人と「あつ出ていくんだね。」としゃべっている声も脳を抜けて、私の目は横須賀港をのぞきながらいく黒ずんだ武器のかたまりをイメージさせていく。四隻の掃海部隊をみつめていた。こうやってゆっくり軍隊は、軍隊を再び送りたくないという私たちの願いを裏切って進んでいくんだと思った。これが平成の意味なんだと思った。九十年代は、日本の市民運動にとって試練の時代なんだ。既存の大きな組織や政党はあてにならないし、だってこんな時にそばに

も来ていないのだから。  
フィリピンの友人エリーが言ったわけ。  
「ボクたちには、個人の自由も社会的な自由も国家としての自由もないんだけどね、ボクたちはそれらを求めているんだよ。」

さあ、私はどうしようかな。  
今後のことはまだ、ペンディングだけど、まずは、横須賀でゴムボートとヨットの「平和船団」を組織したステキな方たちに感謝したい。ボートにのれてうれしかったし、みなさんの希望と熱意が、私のそれでもあったような気がするから。ありがとう。また会いましょう。

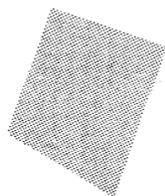


## 4・26 その時私は…(2)

### 日の丸を見るのは つらいといった少女は 何を思うだろう

● 鈴木かずえ

前日はよく眠れませんでした。わたしが声をあげようとあげまいと掃海艇は出て行きます。今でも信じられない。国の政策を大きく変えるようなこんなことをこんなかたちですること。日本のみんながそれを許したこと。



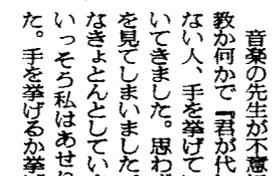
二十六日の朝、臨海公園につくと、まず海上保安庁の船の多さに驚きました。武装した人たちや、ダイバーの人たちもいます。ゴムボートに乗っているときも、前回のミッドウェーの時のように笑顔をかわすことはありませんでした。その日の仕事は、保安庁の方々にとっても悲しい仕事だったにちがいない。

たことです。

私の乗っていたエンジン付きのゴムボートは調子が悪く、他のエンジンボートにひっぱってもらっていました。ゆらゆらとゆれながら、海上では自衛隊の大きな日の丸が、陸上では見送りの人々の日の丸の小旗がゆらゆらゆれているのを見ました。わたしは、その時、「私は日の丸を見上げるのがつらいです」という、いつか新聞で見た、金 桂林ちゃんの言葉をおもいだしました。陸で日の丸を振る人々は日の丸の歴史を知っているのだろうか。軍艦に日の丸を上げた自衛隊員さんはどうだろうか。この日のニュースを見て桂林ちゃんは何を思うだろう。

エンジンを復活して風を切って進んだと思ったら掃海艇と掃海艇の間に入ってしまった。船の先っぽに人が見えた。私はその人に向かって大声で話しかけました。「日章旗をつけたままアジアの海に出ていかない

で」と。一考えなおしたら、途中で帰ってきてね」と。船の先っぽに立っていた人から返事を聞くことはできなかったし、私の声が届いたかどうかはわからないけど、桂林ちゃんやら憲法九条やらアラブの人やら広島の人やらグアムの人やら、なんだかいろいろなことについてごめんなさいと言いながら、私はあそこにはいたのです。



ひとこと

言葉の先生が不意に「宗教か何かで『君が代』歌えない人、手を挙げて」と聞かれました。思わず胸の奥を見せました。みんな「さよなら」としていい。手を挙げるか挙げないか。頭がなかにぐるぐる回ります。ようやくの思いで私は言っていました。

### 「君が代」歌えませぬ

一九二〇年、日韓併合が公表された時、「朝鮮全土は土地をたたくて泣き声に満ちた」というのに、日本ではのき並み、日の丸が飾られて、花電車まで出たこと。村をおそった時、その証(あか)しに日の丸を張りつけていったこと。土地を奪われて、名前まで変えら

横浜市港北区  
金 佳林  
小学校六年生・12歳

# 読者から



「お手紙、読者カード」

◆ミッドウェーなど軍艦横須賀帰港に対し、非戦・非軍備・生命及び人間の尊厳と平等を訴え抗議行動されることに賛同します。カンパ同封します。(城山大賢/住職/広島県)

◆横須賀、呉など平和船団の抗議行動ご苦労さまです。掃海艇の攻撃に因んで「海の掃除にGO!GO!GO!」という詩をかきましたのでお送りします。それからカンパを同封します。何しろ抱えきれないほどの問題があつてどうしようもない状態です。(栗原貞子/詩人/広島市)

\*詩は11ページに掲載させていただきます(編集部)

◆湾岸戦争週報は貴重だった。新聞がどこまで状況をリサーチできるか、ジャーナリストならわかっていることだ。ジェームス・レストンでさえ、ベトナムの時、ニューヨーク・

タイムズを超えられなかった。好戦的なグループ、戦争を必要とし、ゲームのように考えているグループが存在するのだ。公明正大さは、いつでも彼らの隠れみのだ。歴史の真実は市民のレベルで始まり、進行する。歴史は言葉から始まる。結局新聞は権力のメディアであり、「世論」のメーカーなのだ。(小池多米司/東京都)

◆メキシコに転動することになりました。今後も貴虫のご活躍を願っています。メキシコは日本と同様、アメリカ合州国との経済関係が深い一方、自主外交を進めているようです。日本も早く追随外交から脱して欲しいものです。(H・T/公務員/東京都)

「振替用紙通信欄から」

◆自衛隊をめぐる動きも急でいろんな面でピンチですね。反トマの皆さんの奮闘本当にご苦労さま!(K・S/横浜市)

◆貴重な通信を毎回お送り下さり感謝申し上げます。合掌。(日本山妙法寺平和行脚)

◆山奥にいて通信を読ませていただくのみです。すこしでも財政に役立ててご活躍ください。(K・S/飯能市)

◆横須賀の定例デモに参加しています。私はヨコスカの人たちがトマ喰い虫のみなさんの「センス」が大好きです。いつからの費用がわからなくなりました。カンパとして

トロイカの中で再編されたソ連の民間団体「海洋に平和を!ソ連委員会」が参加したことである。五月二二日にモスクワで活動者会議を開き、ソ連平和基金、ソ連海洋法律家協会と共同で次のような声明を採択した。興味深いので抄訳を載せる。

『大衆的な平和運動組織である「太平洋軍備撤廃運動」と「北大西洋ネットワーク」が、「太平洋から大西洋、ペルシヤ湾まで、連帯して海の軍備撤廃を!」というテーマで、五月一八日から二六日まで、海の軍備撤廃のための世界的な行動週間を呼び掛けた。

私たちがソ連の大衆団体、科学者、法律家、

船員、海軍将校、海洋研究者は、絶えざる海の軍備競争、軍事化、海洋汚染、世界の海への核兵器の配備について、世界の平和運動団体と同じように深刻な憂慮を抱いている。人類はいま岐路に立っている。核の破滅に陥るのか、地球上の生命を守る実際的な合意を見出さずのか。

私たちが三団体は海の軍備撤廃のための世界的な行動週間の計画を心から支持する。

この週間に先立って、「海洋に平和を!ソ連委員会」は海の軍縮と海洋生態の保護に関して色々なことをしてきた。

(略)

私たちが、海洋における信頼醸成措置、海

て使ってください。今日は十三回目の給料日だったので。(K・H/横浜市)

◆五月二十六日の国際行動には息子の学校の運動会に参加できませんが、わずかですがカンパで応援します。(U・T/東京都)

◆五月二六日の案内をもちこちから頂き気にしながら、まだカンパ振り込みしてないのでは、と良くも見ずにとまあれ一応とフツ白い方の号外を見て「これは大変」と。と。いつても何しろ「私使う人専門」でやっている人間として、このぐらいで悪しからず。ご健闘を。(S・M/国立市)

◆老貧者の一灯、お許しを。がんばってください。(T・A/大宮市)

◆いつも「トマ喰い虫」を送っていたら、この運動の重要性は充分分かっていくのです。が、何しろがない年金生活。前からかわりのある日市連や救援にまず。というわけで失礼しています。しかし、「虫」の財政まことにピンチらしいですね。わずかばかりカンパをお送りします。(H・M/東京都)

◆多忙のためなかなかヨコスカへ行けません。が、注目しています。(H・A/茅ヶ崎)

◆通信いつも送っていただきながらご協力できないで申し訳ありません。お互いそれぞれのところで今やれることを続けましょう。(M・T/新潟市)

洋での敵対的衝突の低減、海洋発射巡航ミサイルの段階的撤廃について合意するために、海洋軍縮交渉を開始しよう万難を排して第一歩を踏み出すことを、米ソの大統領、国会議員、その他の政治的リーダーに申し入れた。(略)

「海の軍備撤廃のための国際行動週間」に参加して、私たちが、世界の海を核のない、非軍事化され、生態的にきれいな海に転換するために、世界の平和を愛する人々と連帯し、精力的な活動を続ける用意があることを約束する。』

# 原子力艦入港情報

(35)

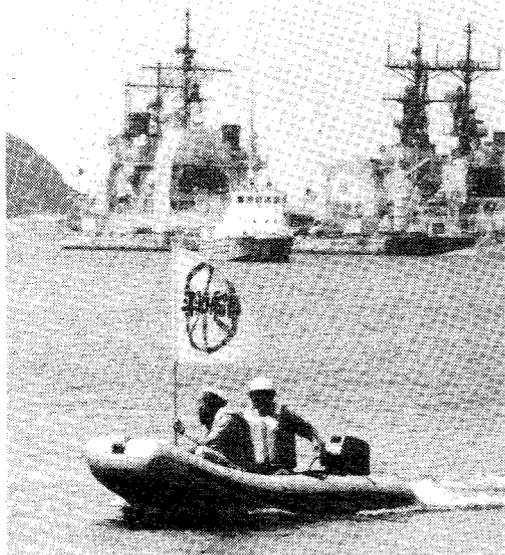
1991年3月16日～6月15日

P級=原子力潜水艦パーミット級  
S級=原子力潜水艦スタージョン級  
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆3月22日 午前9時57分原潜キャバラ(S級)横須賀に入港
- ◆4月1日 午前9時53分原潜キャバラ(S)級横須賀を出港
- ◆4月25日 午前10時13分原潜ニューヨークシティ横須賀に入港
- ◆5月10日 午前10時06分原潜ニューヨークシティ横須賀を出港
- ◆4月30日 午前10時11分原潜ロサンゼルス(L級)横須賀に入港
- ◆5月2日 午前7時56分原潜ロサンゼルス(L級)横須賀を出港
- ◆5月3日 午後3時54分原潜ロサンゼルス(L級)横須賀に入港
- ◆5月6日 午前9時56分原潜ロサンゼルス(L級)横須賀を出港

●1990年1月1日から6月15日の各地への原子力艦入港回数は

横須賀	12回(うち原潜12回)
佐世保	0回(うち原潜0回)
ホワイトビーチ	0回(うち原潜0回)



# 編集室から



●五月二十日発行予定の67号の追い込みと、横須賀行動直前の大事な時期に、なんと、ヘンシユウチョウは病院のベッドの上の人となつてしまいました。そこで合併号となった次第です。無理をして原稿を書いていただいたみなさんには大変申し訳ありませんでした。

●オジサン一人コケルと「虫」もコケルという、わが編集体制の構造的欠陥はいつになつたら解消されるのかとタメ息まじりの午後三

時と、しばらくボウゼンとしていたら、現れたのですね、救世主が。Sさんが助っ人に名乗りでてくれました。企画から原稿依頼、ワープロ打ち、版下作成まで、若き女性との共同作業というトキメキと一緒に編集部に新しいセンスとエネルギーを吹き込んでくれました。うれしい。

●横須賀行動にも、湾岸戦争をきっかけに行動を始めた若い人達が勢参加していて、オジサン、オバサンは若いっていいねえ、といつてましたが。ホントいいよねえ。

●というわけで、来月の発送は  
七月二十一日(日)午後二時から  
日吉のトマ喰い虫社分室で、作業を早めに終えて暑氣払いなんて、いかが? (た)

## 会計報告

(91. 4. 16~6. 15)

### [収入]

○前月からの繰越	1,130
経常繰越	151,130
借入金繰越	△150,000
○今月の収入	495,570
会費収入	185,000
維持団体	40,000
維持個人	70,000
参加団体	0
参加個人	16,000
通信会費	59,000
カンパ収入	282,400
行動収入	10,800
資料収入	17,370
反核ホットライン収入	0
アンケート調査収入	0

### [支出]

●今月の支出(2ヶ月分)	291,354
家賃(5. 6月分)	60,000
水道光熱費	17,821
電話代	45,590
郵送費	34,579
文具代	17,716
印刷費	79,743
行動費	27,525
資料経費	0
反核ホットライン経費	0
アンケート調査経費	0
雑費	2,750
郵便振替等手数料	5,630
●次月への繰越	205,346
経常繰越	355,346
借入金繰越	△150,000

緊急カンパへの御礼とお願い

先月、緊急カンパのお願いをしたところ、たくさんの方々がカンパや会費をご送金くださいました。おかげさまで、一時は風前の灯だった財政も大きく好転いたしました。ありがとうございます。ただ、月々の出費の現状やこの夏のインディペンデンス母港化反対の運動のことを考えますと、まだまだ心もとなさが拭えません。今月は、会費納入状況のお知らせを同封させていただきました。ご参照の上、ご納入いただければ幸いです。また、カンパへのご協力も引き続きよろしくお願いいたします。(会計)



月刊トマ喰い虫第六十七・八合併号

一九九一年六月十日発行

\*発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動  
千一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九  
バル青山五〇二 トマ喰い虫社

〇〇三(三四九八)六〇九五  
〇四五(五六三)五一〇一  
FAX〇四五(五六三)九九〇七  
郵便振替 東京六一二六一四八

\*編集 トマ喰い虫編集委員会  
\*定価 一〇〇円(通信会費年間二〇〇円)